



「臥竜鳳雛」



*タイトルの意味は？調べてみよう

2020・1・15 第15号

学年主任 森本 聡一郎

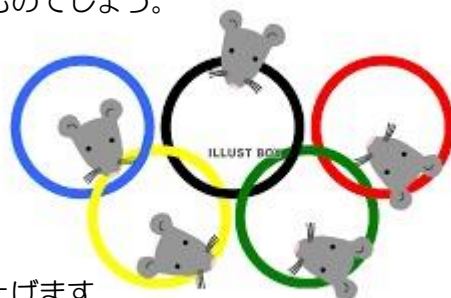
1. 「新年あけましておめでとう」 ～2020年の幕開けに～

令和最初のお正月を迎えました。元号「令和」の字義の通り「うるわしく、なごやかに」と新春の空に願います。誰もが同じ心境でしょう。私の新年は穏やかな幕開けでした。例年通り家族4人でお神酒(みき)で乾杯。お雑煮は白みそ仕立て。お重に盛られた黒豆、お煮しめ、田作り等を少しずついただき、1年の健康を祈願しました。10時から地域の檀家がお寺に集まり、「般若心経」をあげます。続いて、例年なら神社に参り、再び家内安全と無病息災を祈願するのですが、昨年5月に母が亡くなり喪中ということで神社には参らず、午後の宴会の準備です。宝塚に住む兄夫婦と丹波市内に住む姉夫婦と甥家族に姪も加わり、総勢14名で大宴会のスタートです。話題は甥の子供の話が中心。お酒の力も手伝って面白く身振り手振りで話してくれました。

さて、今年は阪神・淡路大震災から25年。四半世紀を振り返る大きな節目の年です。つらい運命に歯を食いしばり、涙したこともある。それでも人との絆など大切なものも見つけた。私たちはこれからどんな道を歩むのでしょうか。直面するのは少子高齢化や地球環境問題といった、過去にない難題ばかりです。

今年は「子」年。十二支の一番最初。何事も最初が肝心です。何事も一つ一つを大切に、かつ丁寧に取り組みましょう。保護者の皆様、本年もよろしくお願い致します。

私事ですが、新年早々にインフルエンザに感染し、学年通信15号の発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。



2. 「1月行事予定」

1月	8日(水)	始業式 大掃除
	9日(木)	課題考査①英語 ②数学
	10日(金)	課題考査①理科 ②国語 キャンパスカウンセリング
	13日(月)	成人の日
	18日(土)	模試(昼食準備) 8:40~14:00
	24日(金)	キャンパスカウンセリング
	29日(水)	城北畑小学校との合同かるた大会(5・6限)
	31日(金)	校内長距離走大会(3限~) 予備日2月5日(水)

3. 「2020 新年の抱負」

●森本聡一郎

「関西百名山」にチャレンジ。と、何年も前からずっと考えている。でも、どの山が百名山かもわかっていないので、とりあえず本屋で調べようと思う。少なくとも大河ドラマ「麒麟が来る」に備えて、八上城には必ず登る。

●西本智子

2019年は、2年間の研修を経て4月に鳳鳴に戻り、学校や市内で「おかえりなさい」と声を掛けてもらいました。74回生と出会い、オリ合宿で、人として最も大切な思いやりを持った生徒たちだと感じました。課外活動では、地域の伝統文化の継承に携わる高校生とともに活動する中で、地域の方から励ましの言葉をいただきました。

2020年は、2019年に多くの方からいただいた優しい思いにこたえるためにも、自分の力を尽くすことを目標とします。そのために、いつもバタバタと慌てていることを反省し、早めの準備を心がけ、事にあたりたいと思います。

●沖守春樹

2019年は充実した1年でした。74回生、1-2と出会えたこと。鳳鳴祭を通して徐々にクラスの緊張が解け、良い雰囲気を感じられたこと。球技大会でチームのために全力を挙げる姿が見られたこと。タイ王国への引率でタイの先生方や生徒に大歓迎を受けたこと等。2020年は頭と身体を一層鍛えたいと思います。そのために、毎週末ランニングをすること。英語以外の小説、論文等を読むこと。以上を行いたいと思います。

●石元真理

新年明けましておめでとうございます。新しい年の幕開けは、未知のことへの期待でいっぱいですね。74回生の皆さんが、充実した一年を送れますように。

私自身は、ただ時間が過ぎていくだけの一年にならぬよう、3つのことを実行したいと思います。一つは、体を動かす趣味を持つこと。二つ目は、通訳・翻訳の勉強をすること。そして、皆さんとの成長を楽しむこと。丁寧に日々を送ることを意識して、2020年を記憶に刻んでいきたいと思います。

●稲谷英俊

あけましておめでとうございます。昨年は私事でバタバタした年になりました。また、新しい生活がスタートした年でもあります。

2020年はいろいろなことに挑戦したいと思います。特に今年は行ったことのない土地に行きたいです。ハネムーンも計画中ですし、今年は3連休が多い年でもあるそうです。いろいろなどころへ行ってリフレッシュするとともに、新たな価値観を学び、多くのことを経験することで自分自身を高めたいと思います。みなさんも、どれだけ年を重ねても、向上心は忘れずに持っておいてください。機会があればどこかで旅行の話をしたいと思います。



4. 「私の恩師 No.3」

1 組担任 西本智子

私にことばを与えた恩師

恩師と言われて一人をあげることは難しい。ただ、こうして何かを書こうとするときに思うことであるが、私は、これまでずっと「ことば」と格闘してきた。何かを読んだり人の話を聞いたりすることはとても好きなのだが、自ら表現しようとするとても時間がかかる。そんな私の奮闘を見守り、時に誉め時に激励してくれた先生方がいた。

まず、話すことについて。幼い頃から話すのが苦手で、強い思いを持っているときほど、息もできないほど緊張し、涙があふれる。かといって話したくないのではなく、自分の思いを伝えたい。そんな私をどの先生もゆっくりと待っていてくれた。高校では、問いに対する解答を単語ひとつでごまかそうとする私に、師は筋道立てて説明することを求めた。「どう考えたのか説明してみなさい」と。

では、書くことはどうか。小学校では、毎日日記にコメントをもらえるのがうれしかった。中学校でも、書くことや発表することを勧めてくれた先生がいた。大学入試を前に、論述というものにはじめて取り組んだときは、何をどう書いてよいか全くわからない状態であったが、粘り強く伴走してくれる先生がいたから落ち着いて対応できた。大学院では、受け手に対して自分の考えを伝えることがいかに難しいかを思い知らされ、文章を何度も書き直した。

ことばを研究対象とする学問があることを知ったのは、大学時代。大きな衝撃であった。ことばの変化を見つめていると、人が世界をどう捉えているかがよくわかる。ことばを知ることは人を知ることだと教わった。

ことばと向き合うことは（苦しく時間のかかることであるが、）価値あることだと教えた多くの恩師と出会ったことと、私が国語の教員として働いていることは、無関係ではないだろう。恩師との出会いは、学生時代に限られない。学校を卒業して、学校という職場に就職し、職場ではもちろん先生に囲まれているわけであるが、様々な先生から影響を受けてきた。こうした先生方も私にとって恩師である。周囲の先生方のことばはいつも私を唸らせ、それに救われることも多い。私はことばを教える教員であるが、今なお教わることの方が多く、それがまた楽しいのである。